

出ていますか? 地震への備え

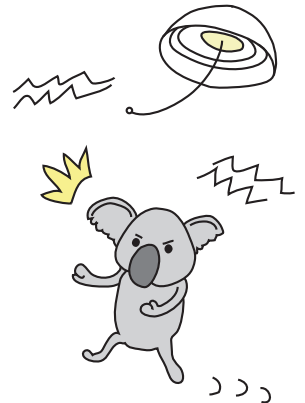
東海沖地震が起きるとかということが言われてからかなり時間が経っています。つい先日もパキスタンでマグニチュード7.2の大地震により何万人もの犠牲者が出ました。「自分は大丈夫だろう」と高をくくっているそのアナタ!! 油断は禁物です。この記事で基本の3Stepをしっかり押さえておきましょう。

まず、地震が起きたら... **どうする?**

Step 1 身を守る

落下物から身を守ります。揺れが収まるまで机などの下に隠れましょう。机などが無い場合、頑丈なもので頭部を守ります。揺れは一般的に数十秒ほどで収まります。

- ・机やテーブルなど、その場で一番丈夫な物の下に身をふせましょう。あらかじめ倒れやすい物は固定しておきましょう。倒れてきそうなものを支えに行かないこと。
- ・海のそばで揺れを感じたら、揺れの大きさに関わらず、すぐに高台へ避難しましょう。



Step 2 火の確認、始末

揺れが収まったら火元の確認をします。コンロ、電気コードなどを確認しましょう。火災の原因になる要素は全て排除します。

- ・揺れがおさまったらすばやく火の始末しましょう。ストーブの火、ガスの元栓、電気器具のコンセントなど。あらかじめ消火器やバケツなど初期消火のための準備をしましょう。
- ・避難のために家を空けるときは、念のためブレーカーも落としておきましょう。
- ・家が無事で、地域に火災の危険がなければあわてて避難する必要はありません。火の手や煙、異様な臭いなどの危険を感じたときはすぐに避難しましょう。



Step 3 避難経路の確保

最後に、窓・ドアを開け、出口を確保します。

- ・建物が傾くと、窓やドアがゆがみ開かなくなることがあります。そのため揺れが大きい場合だけは、先に窓やドアを開けて出口を確保しましょう。
- ・外へ出るときは屋根瓦やガラス、看板などの落下物に十分注意しましょう。



「ハナコアラ」はそんぼ 24 損害保険株式会社の登録商標です。

もしもこんな場所で地震が起こったら!?

01. 地下街

地下街は地震には強いのですが、出入り口が限られていることからパニックが起こりやすい環境です。

停電になった場合は壁伝いに歩けば必ず出口にたどり着きます。また、停電のときに、携帯電話のウィンドウを懐中電灯代わりに使うのも有効です。



普段はにぎやかな地下街。地震が起こってしまつとパニック状態になりかねません。

02. 映画館など

暗く、閉鎖的なのでパニックが起こりやすい環境です。シートの間などに身を隠し、バッグなどで頭を守ります。



出入り口付近は慌てると転倒する可能性が非常に高いです。距離間隔を確保して避難するのが安全です。

03. デパート・スーパー

陳列棚から商品などが落ちてきたり、陳列棚が動いたり転倒してきます。買い物かごなどで頭を守り、柱の近くなど、安全な場所へ移動します。

04. 電車・バスなど

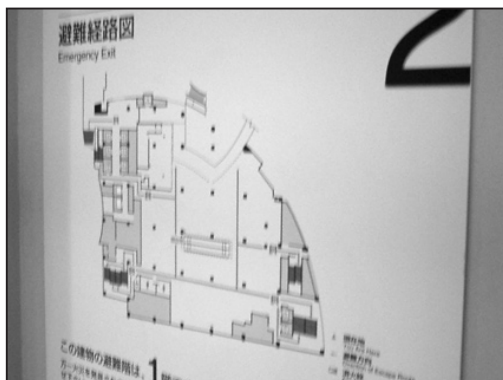
走行中の事故が起こる可能性があります。急ブレーキ、急ハンドル、万が一の事故の衝撃などに備え、手すりやつり革につかまりましょう。勝手に非常口から出るのは危険なのでやめましょう。地下鉄の中はパニックが起こりやすい環境です。乗務員の指示に従って冷静に行動しましょう。

05. 海岸付近

津波が来る可能性があります。揺れを感じたら揺れの大きさに関わらず、直ちに海岸を離れ、近くの高台などに避難しましょう。

まとめ。

大きな地震が起こるといつもの場所が全く違う様になってしまう。生き延びる為にも普段からの心構えをしっかりとっておきましょう。



避難経路図は各建物に大抵掲示されています。(写真はナディアパーク LOFT の避難経路図です。) 最近 JR のホームにも掲示されています。自分の生活範囲は最低限チェックしておきましょう。